

## 平成29年度 公開講座（短期課程）

担当科名	機械システム系メカトロニクス科
担当者名	山口俊憲
講座名	ものづくりカイゼンセミナー(2)生産管理Ⅰ：工程分析・稼働分析・3S・標準化 ～現場の問題点を探る手法・生産管理の基盤の習得～
実施日時	① 平成29年6月21日（水） 18:00～21:00 ② 平成29年6月28日（水） 18:00～21:00 ③ 平成29年7月 5日（水） 18:00～21:00 ④ 平成29年7月12日（水） 18:00～21:00 ⑤ 平成29年7月19日（水） 18:00～21:00（15時間）
募集定員	6人（申込者多数の場合最大12名程度まで）
募 集 対 象	対象職種：不問(講座名はものづくりカイゼンとなっておりますが、事務系・技術系を問わず様々な業種・職種の方が参加可能) 受講に必要なレベル：不問（受講生の状況・希望に応じて内容を調整）
注 意 点	ものづくりカイゼンセミナー(1)～(6)は企業などとの連携を通じて実際に現場カイゼンに取り組む同一講師が全て担当しています。講座(1)～(6)の全てを受講することで、ものづくりカイゼンに必要な知識を体系的に修得できますが、各講座を単独で受講しても理解できるような工夫をしています。例年、一つの講座を受講される方、全て受講される方、数年かけて全てを受講される方がいらっしゃいます。また、このセミナーは社会人を対象とした1年課程の「産業技術専攻科ものづくり改善コース」とも一部連携しています。現場の課題解決に具体的に取組みたい方は専攻科の活用もご検討ください。
講 座 内 容	生産性・品質・安全性を向上するためには、現場から管理者まで様々なレベルにわたる人員の生産管理への理解、カイゼン手法の習得、ものづくりに対する意識の変革が必要となります。本講座では、生産方式（セル生産、ライン生産など）の違い、現場の状況を把握するための工程分析、稼働分析の活用方法、ものづくりを行う上で基盤となる3S（整理・整頓・清掃）の必要性とその進め方、カイゼンを進める上での標準化・見える化の役割について学び、受講者の皆様が勤務する工場での問題点の把握やカイゼンの方向性について具体的な検討を行います。また、本講座の担当講師が共同研究や過去の講座などを通して製造業で取り組んだカイゼン事例を紹介します。
目 標	受講者のレベルに応じて、現場において生産管理の手法を活用できる。あるいは、手法活用の指導ができる。
履 修 項 目	①生産とは何か、生産管理の視点から考える ②生産方式への理解、セル生産とライン生産 ③3S、見える化、標準化 ④工程分析（2時間）と工程改善 ⑤稼働率分析 ⑥インダストリー4.0、IoTの製造現場での活用 ⑦事例紹介

使用装置 ソフト・ 図書等	特になし					
受講 費用	受講料：6,900円（15時間コース）					
	自己負担：                      円（テキスト：                      円・材料費：                      円）					
講座費用	報償費	円	印刷製本費	円	材料費	円
	費用弁償	円	消耗品費	円	通信運搬費	円
	普通旅費	円	使用賃借料	円		
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 製造業の方の申し込みが多いため、講座名を「ものづくりカイゼン」と改めた。</li> <li>・ 例年、定員を超える申し込みを頂いているため、最大受け入れ人数を記載した。</li> <li>・ 注意点において、ものづくりカイゼンセミナーの受講方法や受講生の受講例、産業技術専攻科の広報を目的にこのセミナーとの連携について記載した。</li> <li>・ インダストリー4.0 や IoT の製造現場での活用についての内容を付加した。</li> <li>・ 生産性・品質・安全性向上コースの(1)品質管理、(2)生産管理Ⅰ、(4)生産管理Ⅱの3つのうち、2つ以上を受講することで、メカトロニクス科の生産工学、知能電子システム科の生産工学概論の講義への出席を免除する。但し、試験やレポートの提出を求める場合がある。</li> <li>・ この講座を受講することで、産業技術専攻科ものづくり改善コースの「生産管理」の受講を一部免除する。</li> </ul>					